

## 会議等開催結果報告書

1. 会議名	令和元年度(2019)第2回出雲市介護保険運営協議会		
2. 開催日時	令和元年(2019)11月14日 木曜日 14:00～15:55		
3. 開催場所	出雲市役所本庁3階 庁議室		
4. 出席者	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>嵐谷直美委員、飯國吉子委員、磯田洋平委員、岩崎陽委員、加藤哲夫委員、是光章一委員、齋藤茂子委員、白築明子委員、塩飽邦憲委員、高橋幸男委員、竹内一子委員、多田好江委員、永島真奈美委員、中山博識委員、原洋子委員、福場由紀子委員、祝部裕子委員、牧野由美子委員、松浦久美子委員、松本弘委員、三原順子委員、山崎文夫委員、渡部雅人委員 (23名)</p> <p>(50音順)</p> <p>欠席：飯塚勉委員、須谷生男委員 (2名)</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>健康福祉部長、高齢者福祉課長、医療介護連携課長 ほか</p>		
5. 会議等において検討された事項等	<p>1 開会</p> <p>2 健康福祉部長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定準備について (資料1)</p> <p>(2) 第7期計画に係る成果指標の一部見直しについて (資料2)</p> <p>5 報告事項</p> <p>(1) 介護人材確保・定着に係る施策に関するアンケート集計結果について (資料3)</p> <p>(2) あんしんノート(出雲市版終活支援ノート)の配布について (資料4)</p> <p>(3) 「認知症ケア・フォーラム in いずも」の開催について (チラシ)</p> <p>6 閉会</p>		
6. 担当部署	健康福祉部高齢者福祉課、医療介護連携課	連絡先	0853-21-6212
7. 会議録	別添のとおり		

## 令和元年度(2019)第2回出雲市介護保険運営協議会会議録(要旨)

1. 開会	本協議会を公開で開催、傍聴人 1名
2. 部長あいさつ	省略
3. 会長あいさつ	省略
4. 議事	
会長	資料1の第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定準備について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	<u>資料1「第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定準備について」</u> <u>①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(別紙1)の説明</u>
会長	この調査については、平成29年度に同様の調査を行っているところです。その時回答いただいた方に、その後の変化を含めて生活圏域ごとのニーズと、新たに発足した総合事業についての評価、市が独自に対応しないといけない一般高齢者、事業対象者、要支援1または2の方を対象に実施するものです。 地域支援部会でご意見いただいたものを入れて、3から4ページにこの調査の活用について、但し書きを加えての郵送調査というものです。大枠は国が示したものに、少し市の独自のものを入れての調査です。なにかご質問はありますか。
A委員	分析方法について、説明がなかったところですが、日常圏域ごとの集計は比較していただいておりますでしょうか。
事務局	出雲市では中学校区を単位に日常生活圏域と定めております。その単位で対象者を抽出しており、各圏域ごとにどのような違いがあるのかということ、さらに細分化して地区単位、小学校区になると思いますが、そこまで見れるようになっていますので、それらを含めて計画に盛り込んでいけるものを盛り込みたいと考えています。
A委員	わかりました。ありがとうございました。
会長	郵送するときに番号を振って回答していただいたものに、住所を紐づけできるように回収する。それと、いろんな事業に参加しているとかを紐づけできるようになっています。 設問が多いですが、前回もある程度回答いただいているところですので、これで実施させていただくということで、よろしいでしょうか。
委員	質疑なし
会長	続いて、在宅介護実態調査について説明をお願いします。

事務局	<p><u>資料1「第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定準備について」</u>  <u>②在宅介護実態調査（別紙2）の説明</u></p>
会長	<p>この調査について、ご質問がありますでしょうか。サンプリングが600人というところが気になったところですが、12月から3月の調査期間に行うところほぼ全数が600人程度ということですので、限られた期間ではありますが、出雲市全体の反映ができるのではないかと思います。</p> <p>また、先ほどの郵送調査とは異なり調査員が、認定調査の時に行うということですので、何かわからないことがあったら調査員のほうで説明ができるかと思いません。よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>質疑なし</p>
会長	<p>それでは、別紙3の第8期の計画策定に向けてのスケジュールについて、ご説明をお願いします。</p>
事務局	<p><u>資料1「第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定準備について」</u>  <u>③現段階における第8期計画策定に向けてのスケジュール（案）（別紙3）の説明</u></p>
会長	<p>来年度中に第8期計画を策定していかないといけませんし、それに伴って介護保険料等も決めていかないといけない。出雲市でも介護保険料、介護給付費も上がってきています。効果効率的な運営は難しいところではありますが、今までの協議会の中で市の方で立てていただいた予測が大きく外れたことはないので、こういうスケジュールでやらせていただけたらと思います。今年度より協議会が1回多くなりますね。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>質疑なし</p>
会長	<p>それでは、第7期計画に係る成果指標の一部見直しについて、説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p><u>資料2 「第7期計画に係る成果指標の一部見直しについて」説明</u></p>
会長	<p>今の説明について、何かご質問がありますか。</p>
委員	<p>質疑なし</p>
会長	<p>それでは、報告事項についてご説明をお願いします。</p> <p>まずは、介護人材確保・定着に係る施策に関するアンケート集計結果について、お願いいたします。</p>

事務局	<u>資料3「介護人材確保・定着に係る施策に関するアンケート集計結果について」説明</u>
会長	ちなみに、介護老人保健施設からの回答が少ないようですが、この調査について何かご質問とかありますか。どこも介護関係の事業所では、人手不足が顕在化していて、募集すれどもなかなか手を挙げていただけないという状況です。退職しても非正規職員として雇用しておられる、有資格者がなかなか見つからないということもあります。
A委員	3ページの離職者の状況というところですが、介護福祉士107人とかなり辞めておられるのですが、なにか原因、或いはこの圏域に留まっておられるのか、介護以外の職についておられるのか、もしわかれば教えていただきたいです。
事務局	市内の介護サービス事業所も、グループホームを始めとして増加しております。介護福祉士正規の職員は、77人自己都合でお辞めになり、採用数109人となっています。市内または市外の事業所が変わっておられることも考えられますが、詳細は把握しておりません。
A委員	介護福祉士の資格を持って、他の事業所に変更されたという推定ですかね。
B委員	現場から見ると、他の職種につかれた方が、結構おられるのではと思います。話を聞いてみると、スーパーなど求人が増えていて、少しでも条件が良いとそちらにいかれる。それと卒業される方に関しては、県外に採用されていかれる人が多いように、聞いています。介護報酬が上がらないと給料も上がらないというのが、要因ではないかと思います。
A委員	国の経済財政諮問会議では、介護報酬は上がったと評価していますが、それは実態とちょっとずれるのですね。
B委員	経営難になっている施設も多いですからね。
A委員	ありがとうございました。ちょっと残念ですね。
会長	介護職場が交代制勤務であわないしんどい、人間関係のケースなど、二通りあると思います。 ほかの製造業は50代が主力なところが多くて、新卒が思うように採用ができない。特定技能の介護については東南アジアで資格試験について人気があるところです。研修生と合わせて、特定技能など外国人の採用も準備しないといけないと考えます。
B委員	いずれ必要になってくるかなと思いますが、お金もかかると聞いています。

C 委員	モチベーション持っている人も沢山います。 良いレベルにもっていこうと目指していこうと思っています。
会長	他にありますか。
委員	質疑なし
会長	それでは、続いて「あんしんノート」について説明をお願いいたします。
事務局	<u>資料4 「あんしんノート（出雲市版終活支援ノート）の配布について」説明</u>
会長	全部で1,500部、1冊あたり133円かかって印刷されたということで、全市民に配布はできませんがPRに使ってもらいたい。終活ノートは他にもダウンロードできますが、複雑すぎて、コンパクトにまとまっていると思います。ホームページからダウンロードもできるということです。もし、できることであれば、4章にマイナンバーカードの置き場所も加えてもらえたらと思います。なにかご質問がありますか。
A 委員	感想ですが、先のことだと考えていなかったことが、改めてこれだけの項目を考えないといけないのだなとわかりました。前の世代に聞くことはできなかったけれど、自分のこととして書くことはやりやすいかなと思って、良い試みだと思います。
D 委員	良い冊子だと思いますが、高齢者にとっては書くのが悲しくなるので嫌だなと思うものです。しかし、良くできていると思います。特に生まれてから今までのこと、その人の生き立ちと社会に貢献してこられたことを読むと、大事にしてあげないといけないなと思ったりしていました。
E 委員	平成24年に前段のあんしんノートを作った時は、今回の人生会議（ACP）という要素はなかったので、明るく書きました。作ったきっかけは、当時孤独死とか非常に多かったです。市内でも自分の町内でどうしてあげたら良かったかなと、自治会の相談もありました。あんしんノートを置いてもらって、誰かが訪ねて来た時に見てもらったり、自分で書くことができなかつたら、支援者等が聞き取りで書いて、その人の人生の整理をしてあげることもできるということで、かなり年月を掛けて作りました。回想、自分のことを書いてもらうという要素を含めて作りました。 今回人生会議というものが国でもクローズアップされてきているので、その要素を含みながら、市と協議しながら改訂してきています。第3章の家系の章のところは、若い世代も作ってみることができ、家としての繋がりを確認するという意味でも良いかなという意向も踏まえて改訂させていただいています。
B 委員	このノートの穴は、どこかに掛けておくという意味ですか。例えば、サロン等で終活ノートをもって家に帰ると、どこかにしまってわからなくなってしまうということもあります。

E 委員	<p>これまでは穴がなかったのですが、今回の改訂に合わせて、紐を通して掛けていただくという意味合いで開けています。</p>
事務局	<p>在宅医療・介護連携推進連絡会議の中で、独居の方が病院に搬送されたときなどに、しまってあったらわからない、ということもあり今回要望により穴を開けさせていただきました。</p>
C 委員	<p>一人で書くということは、なかなか厳しいと思います。独居の方は寂しく暮らしておられます。寂しい中で書くということは、相当なエネルギーが必要となります。書いていただける関係性の中で書かないと、例えばヘルパーさんが「一緒に書いてみましょうね」という書く繋がりがないと、書くことができないと思います。</p> <p>家族の繋がりとすることは、その前段のことかなと思います。</p>
会長	<p>いろいろなことを考えておかないといけませんね。ありがとうございます。</p> <p>続いて、「認知症ケア・フォーラム in いずも」の開催について、説明をお願いします。</p>
事務局	<p><u>チラシ 「認知症ケア・フォーラム in いずも」の開催について 説明</u></p>
会長	<p>なにか追加でご発言がありますか。</p>
F 委員	<p>島根県が「小さな拠点づくりモデル地区推進事業の採択状況」が新聞に掲載されていました。モデル地区が3市町が採択されたようです。見出しに公民館枠を超えた体制評価ということがありました。来年度から5年間、1億5千万円かけて行っていくようです。</p> <p>日常生活圏域ということが、介護保険制度の基盤であります。市のコミセン連絡協議会で連携を取り合っているということは聞いていますが、地域作りを考えていくときに、どのように視野に入れておられるのかなと思います。</p>
A 委員	<p>小さな拠点作りというのは、地域振興の流れの中で出てきています。例えば、他で報道されるように、ガソリンスタンドやスーパーが近くにないなど、人が集まるための一定の拠点を整備しつつ、地域に繋がるように維持していこうという発想がベースにあります。ハード整備を含めて、広域を視野に入れて組織作りをしていこうということが、今日の新聞のテーマかなと思って読みました。</p> <p>市の考えはよくわかりませんが、どういうニーズがその地域にあるかによって、地域作りをしていかないといけないと思います。ハードを作ればその上に人が必要です。それもトータルで体制を作っていくのかどうか、重たい課題であると思いがら拝見しました。</p>
事務局	<p>日常生活圏域が中学校区単位となっていることは、子供の数を人口規模の単位と考</p>

	<p>えますと、小学校区単位であると大きく変動はありますが、中学校区単位ではそんなに大きな格差がないということもあります。中学校設立にあたって地域の合意がなされ、地域のブロックごとにまとまりがあり、またコミセンをまたいで、一定の連携がなされているということで、介護保険の中では中学校区単位を日常生活圏域ということで行っているということが市の考え方です。</p> <p>小さな拠点作りというのは、人口規模がかなり減ってくる中で、生活基盤の維持ができない地域の中で暮らし続ける形をとるために、例えば病院とか商店であったり、最低限の基盤の整備について、民間の力を借りて広げていくということ。地域を広げるということは、地域情報を踏まえて生活の基盤ができるようなことを、小さな拠点として整備していきたいというのが一つの方法です。小さな拠点がたくさんあるものが繋がって街になるという意識を持っていますが、市の中で具体的なものがない状況です。</p>
会長	<p>他にはよろしいでしょうか。</p> <p>そうしたら、参考資料について説明をお願いします。</p>
事務局	<p><u>参考資料 「今後の介護保険制度に関する国の動き等」について 説明</u></p>
会長	<p>資料から見ると、出雲市について、認定率については低いけれど、給付費については若干高いという状況です。</p> <p>次期介護サービス利用者数の推計、保険料を設定するときに合わせて、議論をしていき、より良いサービスになればと思います。</p> <p>なにかこれについて、ご質問やご意見はありませんか。</p>
委員	<p>質疑なし</p>
会長	<p>それでは、議事と報告事項について終了しましたので、事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>そうしますと、スケジュールでもお示ししましたが、来年度第8期計画に向けて進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本日は大変ありがとうございました。</p>